

製品安全データシート

1. 化学物質等および会社情報

製品名	バスシール
会社名	シャープ化学工業株式会社
住所	〒592-8352 大阪府堺市西区築港浜寺西町13-12
担当部門	品質保証課
TEL	072-268-0322
制定・改訂	2007年8月1日

2. 危険・有害性の要約

分類の名称	該当なし	
火災・爆発性	可燃性、引火性あり	
有害性	眼に入った場合	炎症と痛みがある
	皮膚に付着した場合	皮膚を刺激することがある
	吸入した場合	呼吸器系に弱い刺激を示す
	飲み込んだ場合	有害性は少ない
	その他	データなし

3. 組成、成分情報

		含有率 (%)	労働安全衛生法
単一製品・混合物の区別	混合物		
成分	ポリアルキルシロキサンの		
	オキシムシラン		
	シリカ	10-20	政令番号312
	ジアルキル錫化合物	0.1未満	
	接着向上剤		
	酸化チタン	1-10	政令番号191
	防カビ剤		
PRTR該当物質	該当しない		

国連分類 該当しない

国連番号 該当しない

4. 応急処置

目に入った場合	直ちに清浄な多量の水で最低15分間洗い流す。速やかに専門医の手当てを受ける。
皮膚に付着した場合	付着物を布にてすばやく拭き取る。 大量の水で洗い流す。洗い流してから水と石鹼で皮膚を洗浄する。 外観に変化が見られたり、痛みがある場合には専門医の手当てを受ける。
吸入した場合	直ちに新鮮な空気のある場所に移し安静にする。症状により医師の診断を受ける
飲み込んだ場合	直ちに吐き出させ、医師の診察を受ける。
最も重要な兆候および症状	特になし
応急措置をする者の保護	情報なし
医師に対する特別注意事項	情報なし

5. 火災時の処置

使用可能消火剤	A B CまたはB C型粉末消火器、二酸化炭素、泡消火剤
使用してはならない消火剤	棒状の水
火災時特有の危険有害性	
特有の消火方法	場合によっては、適切な保護具（耐熱着衣など）を着用する。 可燃性のものをすばやく周囲から取り除く。 指定の消火器を使用すること。
消火を行なう者の保護	消火者は適切な保護具（耐熱着衣、保護眼鏡等）を着用し、風上から消火を行なう。

6. 漏出時の処置

人体に対する注意事項、保護具および緊急措置	曝露防止のため、作業の際には適切な保護具を着用する。 風上より処置を行なう。 風下の人を避難させ、関係者以外の立ち入りを禁止する。
環境に対する注意事項	少量漏出の場合にはウエス、砂等に吸収させて回収する。 大量漏出の場合、土砂、土嚢で流出防止後、容器に回収する。

7. 取扱いおよび保管上の注意

技術的対策	<p>周辺で火気、スパーク、高温物の使用を禁止する。</p> <p>皮膚、粘膜、着衣に触れたり、吸入したり、目に入らないように適切な保護具を着用する。</p> <p>静電気対策のため装置、機器のアースをする。</p>
局所排気・全体換気 注意事項	<p>硬化時にメチルエチルケトオキシムが発生するので、換気の良い場所で取り扱う。</p> <p>空気中の湿気との加水分解反応により硬化するため、水分、湿気の混入に注意し、容器開封後は速やかに全量を使い切る。</p>
保管条件	<p>幼児の手の届かない所に置くこと。</p> <p>直射日光を避ける。</p> <p>火気、熱源から遠ざける。</p> <p>水周りや湿気の多いところを避け、冷暗所に保管する。</p>

8. 暴露防止処置

管理濃度	該当なし	
許容濃度	日本産業衛生学会	該当なし
	ACGIH	該当なし
設備対策	<p>全体または局所排気装置</p> <p>洗眼および身体洗浄の設備</p>	
保 護 具	眼の保護	保護眼鏡
	皮膚の保護	ゴムまたはビニール手袋
	防護衣	長靴、前掛け等

9. 物理および化学的性質

	内容物
外観	ペースト
臭気	特異臭
沸点	該当なし
蒸気圧	該当なし
揮発性	なし
融点	該当なし
比重	1.03
溶解性	水に不溶
引火点	63°C

発火点	450℃
爆発範囲	該当なし

10. 安定性および反応性

安定性	通常の条件では安定。
危険有害反応性	強酸、強アルカリ等と反応する。
避けるべき条件	高温多湿な場所での保管。火気の近くでの使用。
危険有害な分解生成物	情報なし

11. 有害性情報

皮膚腐食性	データなし	
刺激性	データなし	
感作性	データなし	
急性毒性 (LD50を含む)	データなし	
亜急性毒性	データなし	
慢性毒性	データなし	
ガン原性	データなし	
変異原性 (微生物、染色体異常)	データなし	
生殖毒性	データなし	
催奇形性	データなし	

その他

本品が硬化時に発生するメチルエチルケトオキシムの有害性

皮膚刺激性	軽度の皮膚刺激性		
眼刺激性	強い眼刺激。腐食性の障害のおそれ		
急性毒性	経口	ラットLD50	4ml/kg
	吸入	ラットLC50	> 4.8mg/L/4H
吸入毒性	高濃度で一時的な麻酔作用がある。血液の機能への影響がある。		
皮膚感作性	陽性（モルモット）。人に対するアレルギー反応はなし。		
神経毒性	高濃度で一時的な運動機能低下（ラット）		
発がん性	高濃度（375ppm）でのラット、マウスの生涯試験（約2年間）でオスのみに肝腫瘍の発生が見られた。		
その他の長期曝露試験	ラット、マウスでの嗅覚上皮細胞の退化が観察された。		
許容濃度	TWA 3ppm（原料供給者推奨値）、STEL 10ppm内になるように十分換気し、維持管理すること。 AIIHAのWEEE勧告値は、TWA 10ppm		

